

10月職業奉仕月間に因んで

地区奉仕プロジェクト部門カウンセラー パストガバナー

米田 真理子

台風12号・15号による紀南方面の被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。



残暑も束の間、朝夕には寒さを感じるようになってまいりました。皆様には日々ロータリー活動に頑張っておられることと拝察いたします。私は秋の涼風と秋祭りの太鼓の音を楽しみながら、自分の職業分類でもある薬剤師の仕事に勤んでおります。現在は、紀南地方の台風被災支援、東日本大震災被災地の救援・復興支援が第一優先だと日々ボランティア活動にも励んでおります。

さて、10月は職業奉仕月間です。「職業奉仕」と言う、どの辞書にも載っていない言葉をロータリー活動の中核概念として世界122万人ものロータリアンはそれぞれに理想を描きながら奉仕の実践活動をしてきたのです。この「職業奉仕」と言う概念は「ロータリーの綱領」の中に染まされていますが、この綱領の解釈についても議論を起こすところです。

1951年のニュージャージー州アトランタで開催された国際大会で国際ロータリー定款第3条およびクラブ定款を改定し、それまで複数あった綱領を単数にしたのです。「Objects」を「Object」にし、現在に至っています。

ロータリーの綱領は、「有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある。」実はこれは前文でなく、綱領そのものであり、第一から第四までは、この綱領を達成する4つの方途であります。ここでは方途はまだまだあるが、「特に」と示して、重要な道を示しているのです。

綱領の第一項で、職業倫理の向上という心の向かう方向は、奉仕の理想と言う共通の信条をロータリアン、ロータリアンの家族、ロータリアンの事業所の人々、その関係する地域社会の人々による世界的な親交は、必ずや世界平和の親交に役立つであろうと宣言しているのです。

ロータリー運動における理念の提唱はアーサー・F・シェルドンが「He Profits Most Who Serves Best」、フランク・コリンズが「Service, Not Self」と言う2大標語を発想以来、1915年にガイ・ガンディカーの「A Talking Knowledge Of Rotary」、1921年のシェルドンによる「The Philosophy Of Rotary」「決議23-34」「大連ロータリー宣言」など…先人のロータリーの奉仕哲学を学び、それについての実践は、わたしたちに課せられた重大な義務であろうと考えます。

利己的な欲求と利他の心の葛藤を和らげる人生哲学

ロータリー哲学は、奉仕 Service above self の哲学であり、これは He profits most who serves best という実践的な倫理原則に基づくものであります。

10月職業奉仕月間に因んで

ロータリーの会員資格は会員の職業に基づいており、各クラブは地元地域社会の事業と専門職務の縮図をクラブで再現するように務めます。職業奉仕を通してロータリアンはすべての取引における高い倫理基準を守り、これを推進し、あらゆる有用な仕事の価値を認め、自己職業上の専門知識や技能を社会のニーズに役立てるように期待されています。職業奉仕を推進する責務は、ロータリークラブとクラブ会員の双方にあります。各クラブは会員の職業的スキルを發揮できるようなプロジェクトを実施すべきです。また、クラブ会員がそのようなプロジェクトに貢献し、ロータリーの原則に沿って事業や仕事を律することが求められています。

四つのテストは1932年当時シカゴロータリークラブの会員であり、1954-1955年度に国際ロータリー会長を務めたハーバートJ. テイラーにより発案されました。倒産寸前にあった会社を建て直す仕事を任されたテイラーは仕事に関連するすべての事柄において従うべき倫理的指針として「四つのテスト」を創りました。この会社が倒産を免れたのはこのシンプルな哲学のお陰であったと人々は考えました。その後1943年に国際ロータリーによって採択されて以来、「四つのテスト」はロータリアンが倫理的行動を測る上での重要な尺度として用いられてきました。このテストは数十か国語に翻訳されて世界中のロータリアンによって推進されています。

職場での倫理的行動を実践するための3つのカギ

☆誠実な言葉遣い ☆正しい行動に徹する姿勢 ☆曖昧さを断固として許さない

この3つの態度が倫理的な事業慣行のよりどころであると述べられています。

1) 誠実な言葉遣い

リーダーが組織のためにできるもっとも重要なことのひとつは、誠実な言葉遣いである。言葉の力を用いて、自らの倫理的立場を明確に述べる。

2) 正しい行動に徹する姿勢

従業員が人としての高潔さを育み、実践していけるように勤務評価の期待事項として倫理の実践を組み入れる。

3) 曖昧さを断固として許さない態度

正しい行いへと導く明確で力強く、ゆるぎない考えを持つためには、これこそが必要なのだ。

最後に1912年9月号ロータリアン誌から抜粋した言葉を引用してお伝えし、10月が素晴らしい職業奉仕月間になりますよう心よりご祈念申し上げます。

『ロータリーの水準と理想を高く掲げることの重要性は、いくら強調してもしすぎることはありません。ロータリーの倫理の大空に希望の星が高らかに輝かなければなりません。希望の星が高すぎるということはまずありえないでしょう。どこからでも目指して努力できるくらいの高さであることを願っています。』